

【授業科目】 輸血・移植検査学 Blood Transfusion and Transplantation

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
杉浦 諭	2年次前期	必修	2	30	講義	なし	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／輸血や移植は重大な副反応を引き起こす可能性があるため、輸血・移植検査学は重要な科目として位置づけられている。免疫の仕組みを理解した上で、輸血療法の目的や輸血用血液製剤の種類と特性、各種血液型や関連する抗原・抗体などの基本的事項から、ABO・Rh血液型検査や不規則抗体検査、交差適合試験など、輸血・移植検査の意義と理論を教授する。また、自己血輸血や輸血副反応、静脈路への成分採血装置の接続及び操作、血液型不適合妊娠で、さらには移植の種類や造血幹細胞移植、拒絶反応とGVHD、HLAとその検査(DNAタイピング)など、輸血・移植検査に関する幅広い知識についても講義する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／実施した小テストは返却し、正解答を公表することによりフィードバックを行う。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 輸血・移植の目的と意義を理解し、説明することができる。 ② 各種血液型の特徴について理解し、説明することができる。 ③ 輸血・移植検査の基本原則と方法を論理的に理解し、説明することができる。 ④ 輸血・移植による副作用の機序とその予防法を理解し、説明することができる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>免疫学、免疫検査学を基礎とするので、理解した上で授業に臨むことが望ましい。事前に、計画されている該当部分の教科書を一読し、また前回講義の内容についての復習も行ってから授業に臨むこと(予習・復習で各120分)</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 輸血療法とは(輸血の目的と特性・輸血の種類・歴史) 第2回 献血の種類と献血者の基準・輸血用血液製剤の製造方法と種類 第3回 輸血の適応と製剤の選択・輸血前に必要な検査 第4回 ABO血液型 第5回 Rh血液型 第6回 その他の血液型① 第7回 その他の血液型② 第8回 交差適合試験 第9回 不規則抗体検査① 第10回 不規則抗体検査② 第11回 不規則抗体検査③ 第12回 自己抗体と自己免疫性溶血性貧血・薬剤性溶血性貧血 新生児溶血性疾患(母児血液型不適合)と検査 第13回 輸血副反応・自己血輸血の種類と特徴、成分採血 第14回 移植の種類と検査・拒絶反応と免疫抑制剤・造血幹細胞移植 第15回 HLAとその検査(DNAタイピング)・血小板抗原・顆粒球抗原</p>						全て 杉浦	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 小テスト 20%、学期末試験 80%</p>							
教科書	『最新臨床検査学講座 免疫検査学』医歯薬出版 ※1年次「免疫学」「免疫検査学」で使用したもの			参考書等		なし		
学生へのメッセージ	<p>近年、輸血と移植の安全性や副反応に対して大きな関心が寄せられている。本科目の重要性を理解し、将来、輸血・移植検査業務に携わる臨床検査技師として医療現場で必要とされる十分な知識を習得するために、積極的に講義に臨んでほしい。</p>							